



# 哲学教育の学修目標を定め、学 修成果を測る

田中一孝  
(桜美林大学 哲学専攻プログラム 講師)

1

## 目次

1. 本発表の背景
2. 問題
3. 哲学の学修目標を定める
4. 哲学の学修成果の測定
5. 展望

# 1. 本発表の背景

## (2008) 「学士課程教育の構築に向けて（答申）」

「学士力」

「自立した職業人に必要な能力」・・・「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験」

「各専門分野を通じて培う」・・・学部・学科での専門的な教育の実情を反映するものではない

## (2010) 「分野別質保証のあり方について」

分野別の「参照基準」・・・各専門分野の固有の特性を踏まえて、学生が身に付けるべきことの基準

「学士力」の議論を補う・・・専門分野の教育から学習目標を定める

## (2016) 「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 哲学分野」

3

# 2. 問題

人文社会科学系学問への評価の現実  
卒業生たちのキャリアパスの狭まり  
哲学の学修成果が汎用的な能力へ単純化・規格化される傾向

**卒業生の進路に合わせて、哲学教育の学修目標を捉え直す必要性**

**社会に効果的・説得的に伝える必要性**

4

## 3. 哲学の学修目標を定める

哲学が何を目標とする学問であるかは、外側から見れば、謎めいている

哲学教育がもたらす成果は目に見えず、長期的なもので、それを明らかにする発想は哲学の価値を損なうことに繋がる

(“Statement”, American Philosophical Association (1995))

→この姿勢は、既に哲学教育の価値に疑いを持つているステークホルダー達を説得には全くつながらない。

5

## 3. 哲学の学修目標を定める

哲学を卒業した学生はどうなるべきか、何が期待されているのか

ステークホルダーへのインタビュー

- ・ 哲学思想系の教員
- ・ 現役学生
- ・ OB/OG
- ・ 雇用主

先行研究のサーベイ

- ・ 「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：哲学分野」
- ・ 諸大学が公表している学修目標

哲学を学修した人間に期待されることとして、33項目が析出される

→その項目をベースに、哲学の学修成果に関連した質問表を作成

6

## 4. 哲学の学習成果を測る

「哲学学習成果」大学横断的に試行的に測定

第1回：3大学、6クラス、144人

→第2回：71人

第1回の分析に基づいて調査項目を削減

・ 33項目→16項目

・ 3つの共通因子

(哲学的議論構築力、哲学的態度、哲学的知識)

→哲学的能力尺度

7

## 5. 展望

**マクロレベル：哲学的能力尺度の改善**

1. より多くの大学で調査を行う
2. インタビューを重ねる

**ミクロレベル：学位プログラムの改善**

3. 「哲学的能力尺度」を参考に、個々の大学でのディプロマ・ポリシーに基づきながらカリキュラムを改善→モデルケースの作成？
4. 「哲学教育学習成果」と成績評価の対応一致

8